

平成29年 第3回JSR編集委員会 議事録

日時：平成29年11月3日（金） 8：30～9：30

場所：TKP品川カンファレンスセンター5F「5H」

出席：中村 博亮（担当理事）、川口 善治（委員長）、赤澤 努、青田 洋一、寒竹 司、
税田 和夫、二階堂 琢也、長谷川 和宏、福岡 宗良、平林 茂（アドバタイザ）
（以上、10名）

欠席：石井 賢、伊東 学、江幡 重人、長谷 斉（以上、4名）

陪席：CBR 三輪氏、編集分室 尾島氏、事務局 鈴木

議題1 第2回（前回）JSR編集委員会議事録について（資料1）

一同で前回議事録を確認した。

議題2 関連学会の編集委員長報告

各学会の編集委員長より現状の投稿や進行状況等について報告がなされた。特に大きな遅れや問題がないことを確認した。

議題3 今年度の企業からの広告代申し込み報告（資料2）

川口委員長が、現状の広告申し込み状況一覧を示し、先月行われた日本脊椎インストゥルメンテーション学会に出展していた企業全社を回り広告依頼をしたことを報告した。

現状は芳しくない申し込み状況なので、割り振られた企業リストへまだ声掛けをしていない委員には早めにお願ひしたいことと、他に広告出稿が可能な企業に心当たりのある場合は声掛けをお願ひしたいと依頼し、一同承知した。

また表3対向に例年申し込みのあった企業が後付けになってしまったため、こちらも心当たりがあればお願ひしたいとの呼びかけがなされた。

議題4 第8巻の発刊予定状況（資料3）

編集分室作成の第8巻の発刊予定が示され、一同査収した。とくに大きな遅れ等もなく、JSSR号に関しても投稿数は足りているとの報告がなされた。

議題5 JSR 審査状況（資料4）

川口委員長が、10月20日現在の審査状況リストを説明した。

青田委員が、投稿された中で二次出版についての論文があるようだが、医学的というより教育的な内容かと問い、川口委員長が全会員に読んでもらいたい教育的な内容であると回答

した。当該論文については、目につきやすい箇所へ掲載してはどうかとの提案が会場からあり、分室尾島氏が巻頭にすることを提案し、一同賛同した。

川口委員長が、新技術評価検証委員会から SSRR 誌および JSR 誌に掲載希望の原稿があるとの依頼があったと報告した。

会場からどのような内容の論文であるかと質問がなされ、事務局が理事会での新技術評価検証委員会からの説明によるとガイドラインのようなものであるとのことで、理事会では JSR 誌等への掲載が承認されていると説明した。

川口委員長が、SSRR 誌にも英文で同内容が掲載されることもあり、SSRR 誌の折田委員長とも相談し二重投稿とみなされないようにすると発言した。平林アドバイザーが当該論文は「公表」に当たるものなので、二重投稿とはみなされないだろうとアドバイスした。

川口委員長が、本件については別紙での掲載も提案したが、新技術評価検証委員会からは学会誌本誌に掲載されることが重要であるとの回答があり、JSR 編集委員会での査読後、基本的に本誌へ掲載の方向で進める予定であると説明した。

議題 6 倫理審査項目（資料 5：遠藤先生ご意見、資料 6：投稿論文査読結果用紙）

遠藤評議員から、査読のチェック項目に倫理審査についての項目がないことについて指摘があった件につき、一同検討した。以下のような意見が出た。

税田委員：施設の倫理委員を通過しているかをチェックさせるということであれば、規模の小さい病院など、倫理委員会自体がない所属に属する会員からの投稿は難しくなってしまうと考える。

川口委員長：査読時点では倫理面に問題のある内容がないかは見ているが、チェック項目は設けていない。日整会誌『JOS』にはあり、各施設の倫理審査を通過していないと論文自体が採択されない。

ここで遠藤評議員の意見が、「各施設の倫理委員会を通過したかのチェック項目を設けるべき」ということなのか、「投稿論文の内容が倫理的に問題ないかを問うべき」のどちらであるか議論となった。

青田委員・赤澤委員：投稿論文の内容が倫理的に問題ないかを問う項目は JSR の審査用紙である 11 番にすでにあるため、遠藤評議員の指摘はやはり各施設の倫理委員会通過についてのチェック項目を設けるべきとの提案であると考えられる。

福岡委員：現在までに JSR では各施設の倫理委員会を通過していない論文を数多く採択しているはず。チェック項目を設けたとして、施設の倫理委員会を通過していないことが明らかなる場合も、今まで通り論文を採択することができるか。

青田委員：現在はレトロな研究でも、倫理委員会は通しておくべきという流れにはなっているが、通過していなくても内容的に問題なければ JSR の査読は通してもよいか。

中村理事：明らかなチェック項目を設けたうえで、倫理審査を通過していないことが明らかな論部を採択するのは難しいように思う。

平林アドバイザー：様々な病院があるので、そのチェックがあるかどうかだけで論文を不採用とするのはどうか。JSR の論文審査用紙にはすでに 11 番目の項目で倫理についての項目が設けられているので、現状はこのままでよいのではないか。

以上の議論を経て、川口委員長が、現状はペンディングとして今の査読制度のままとし、時流を見ながらまた再検討もありえるとまとめた。

議題 7 英文誌刊行についての説明

川口委員長が、学会の英文公式ジャーナル『SSRR』誌の投稿および発刊状況について、投稿は順調であり 100 編以上がすでに投稿されていること、予定通り刊行されていること、ただし 2 編を除き投稿者は日本人ばかりであることに問題があると報告した。

評議員の新規申請や更新時に、『SSRR』の査読が今後義務化されることや、来年までに PubMed への収載、数年後にはインパクトファクター取得への準備も順調に進められていることについても説明した。

議題 8 紙媒体学会誌要不要調査結果の件（資料 7）

紙媒体学会誌の要不要調査資料が示された。

現在 CBR 社との契約刷部数は通常号 4800 部、抄録号 5200 部であるが、実際にはすべての号においてそれを大きく下回る刷り部数であった（通常号 3800 部程度、抄録号も 3800-3900 部程度）。

各号契約分を印刷しているのではないのかとの質問について、事務局で毎号必要部数を算定し、毎号実数に合わせた数でいらしているため、実際には契約数より少なく吸っているとの説明がなされた。

次回の契約改定において、部数を減らした金額で費用を算出することを依頼することになった。

本件については学会の契約事項のため、金額が固まり次第、中村理事から理事会へ議事を提出し、承諾を得たうえで契約部数の変更に臨むことが確認された。

議題 9 その他

【他の委員会からの投稿】

青田委員が、自身が担当している社会保険等システム検討委員会のほうでも、新技術評価検証委員会同様に、会員に広く知らしめたい情報があると発言した。内容としては、保険点数改定時のルールなどの教育的なものや、厚生労働省との交渉に使えるエビデンスをわかりやすく掲載した医学的な論文であり、こういった内容の論文が学会誌に掲載されれば、厚生労働省へのアピールにもなり交渉も進めやすくなると説明した。

平林アドバイザーは、以前、脊椎インストゥルメンテーション手術で生じた合併症を全国調査した委員会の結果を、委員会として掲載したことがあったと報告した。

青田委員が、背骨に関する点数収載の要望については日整会よりも JSSR から提出していることがほとんどであると説明した。

川口委員長が、前回まで9号の内容をどうやって埋めていくかを検討していたこともあり、JSSR 担当号(1.2.5.9号)に、学会(委員会)から会員へ伝えるべき教育的な総説や論文を掲載していくことは、内容面はもちろんのこと、掲載スペースの面でも問題ないと考えたと意見を述べた。

【査読のルール】

平林アドバイザーが、査読時のルールについて大学内の規定を説明した。委員全員が知っておいたほうが良いとして、後日回覧することになった。

【次回委員会開催予定】

2018年5月24日 朝(7:00または8:00ごろ)～神戸の日整会総会会場にて

以上